

在韓被爆者支援

2. 5. 11

北東アジア課

1. 要求のポイント

- (1) 大統領訪日を契機に過去に起因する3点セットの問題に決着を付け、新たな未来志向的關係に入ることが不可欠。3点のうち、三世問題、サハリンには目処が付いたので、今や最大の焦点は被爆者支援。
- (2) 本問題につき一括解決を図るため、平成3年度予算で、大韓赤十字社に40億円の基金を拠出（全額ODA、経済協力国際機関等拠出金）。
- (3) 目的は、特殊な歴史的経緯、人道的観点、福祉向上の観点から、在韓被爆者（約3000人）に、日本の被爆者に準じた手当を行うべく、治療費、健康管理手当、医療機材等を支援するもの。（基金の運用をもって長期間これら支援を継続）
- (4) 盧泰愚大統領訪日の際に、総理より、40億円をコミットして頂く。

2. 財政当局とのやりとり

主に以下の諸点を巡って議論は平行線。

- (1) 3年度予算で要求するものを現時点で具体的金額を明示してコミットは出来ない。前例も無いはず。→金額を明示しないと意味なし。何らかの前提条件を付ける（国会で承認されることを条件に等）とか40億を「目処」や「限度」とするなどして金額を明示させてもらうことが是非必要。

(2)

(3)

- (4) ODAに馴染むのか→韓国は依然ODA対象国。福祉向上、人道の目的はODAの目的に合致するもの。一種の医療協力でもある。